

データベースの概要

医療用医薬品の添付文書に記載されている使用回数やタイミングに関するデータベースです。使用タイミングの指示に関するチェックや表示情報としてご利用いただくことが可能です。本データベースは、全ての医療用医薬品を網羅しています。

データベースの特徴

食事などに関するタイミングに対応

起床時、朝・昼・夕食前（後）、朝・昼・夕食直前（直後）、就寝前（直前）などの情報を保持しているため、薬品毎に適正な使用タイミングのチェックや表示を行うことが可能です。

例

『バイス錠0.3』の添付文書（抜粋）

○糖尿病の食後過血糖の改善の場合

通常、成人にはボグリボースとして1回0.2mgを**1日3回毎食直前**に経口投与する。なお、効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら1回量を0.3mgまで増量することができる。

『バイス錠0.3』のデータ（概略）

| 使用回数 | イベント | | | タイミング | | | 表示情報 |
|------|------|----|----|-------|----|----|------|
| | 朝食 | 昼食 | 夕食 | 直前 | 直前 | 直前 | |
| 3 | | | | | | | 毎食直前 |

時間に関するタイミングに対応

6時間間隔、30分間隔、検査15分前などの時間に関する情報を保持しているため、薬品を使用する間隔や時間に関するタイミングのチェックや表示を行うことが可能です。

例

『リウマトレックスカプセル2mg』の添付文書（抜粋）

関節リウマチ

通常、1週間単位の投与量をメトトレキサートとして6mgとし、1週間単位の投与量を**1回又は2~3回**に分割して経口投与する。分割して投与する場合、初日から2日目にかけて**12時間間隔**で投与する。1回又は2回分割投与の場合は残りの6日間、3回分割投与の場合は残りの5日間は休業する。これを1週間ごとに繰り返す。なお、患者の年齢、症状、忍容性及び本剤に対する反応等に応じて適宜増減するが、1週間単位の投与量として16mgを超えないようにする。

『リウマトレックスカプセル2mg』のデータ（概略）

| 使用回数 | 時間最小 | | 時間最大 | 時間単位 | タイミング | 表示情報 |
|------|------|----|------|------|-------|--------|
| | 1 | 2 | 3 | | | |
| | 12 | 12 | | 時間 | 間隔 | 12時間間隔 |

疾患や療法毎のタイミングに対応

疾患や療法毎に使用するタイミングの情報を保持しているため、より詳細なタイミングのチェックや表示を行うことが可能です。

例

『プロテカジン錠10』の添付文書（抜粋）

○胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、逆流性食道炎

通常、成人にはラフチジンとして1回10mgを**1日2回（朝食後、夕食後または就寝前）**経口投与する。

○下記疾患の胃粘膜病変（びらん、出血、発赤、浮腫）の改善：急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期

通常、成人にはラフチジンとして1回10mgを**1日1回（夕食後または就寝前）**経口投与する。

○麻酔前投薬

通常、成人にはラフチジンとして1回10mgを**手術前日就寝前及び手術当日麻酔導入2時間前の2回**経口投与する。

『プロテカジン錠10』のデータ（概略）

| 疾患名 | 使用回数 | イベント | | 時間 最小 | 時間 最大 | 時間 単位 | タイミング | | 表示情報 |
|---|------|------|----|----------|----------|----------|-------|---|---------|
| | | 朝食 | 夕食 | | | | 後 | 前 | |
| 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、 吻合部潰瘍、逆流性食道炎 | 2 | 朝食 | 夕食 | | | | 後 | 後 | 朝夕食後 |
| | 2 | 朝食 | 就寝 | | | | 後 | 前 | 朝食後・就寝前 |
| 急性胃炎、慢性胃炎の急性 増悪期の胃粘膜病変（びら ん、出血、発赤、浮腫） | 1 | 夕食 | | | | | 後 | | 夕食後 |
| | 1 | 就寝 | | | | | 前 | | 就寝前 |
| 麻酔前投薬 | 1 | 就寝 | | | | | 前 | | 就寝前 |
| | 1 | | 麻酔 | 2 | 2 | 時間 | 前 | | 麻酔前2時間 |

例

『ロイコボリン錠5mg』の添付文書（抜粋）

◇メトトレキサート通常療法、CMF療法、メトトレキサート関節リウマチ療法又はM-VAC療法：

メトトレキサート通常療法、CMF療法、メトトレキサート関節リウマチ療法又はM-VAC療法でメトトレキサートによると思われる副作用が発現した場合には、通常、ロイコボリンとして成人1回10mgを**6時間間隔で4回**経口投与する。なお、メトトレキサートを過剰投与した場合には、投与したメトトレキサートと同量を投与する。

◇メトトレキサート・フルオロウラシル交代療法：

通常、メトトレキサート投与後24時間目よりロイコボリンとして1回15mgを**6時間間隔で2～6回**（メトトレキサート投与後24、30、36、42、48、54時間目）経口投与する。

メトトレキサートによると思われる重篤な副作用があらわれた場合には、用量を増加し、投与期間を延長する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

『ロイコボリン錠5mg』のデータ（概略）

| 疾患名 | 使用回数 | イベント | 時間 最小 | 時間 最大 | 時間 単位 | タイミング | 表示情報 | |
|---|-----------|------|----------|----------|----------|-------|-------|-------|
| | | | | | | | 間隔 | 表示情報 |
| メトトレキサート通常療法、CMF療法、 メトトレキサート関節リウマチ療法、 M-VAC療法 | 4 | | | | | 間隔 | 6時間間隔 | 6時間間隔 |
| メトトレキサート・フルオロウラシル 交代療法 | 2 3 4 5 6 | | | | | 間隔 | 6時間間隔 | 6時間間隔 |

※疾患や療法毎のタイミングを取得する場合は、用法・用量データベースとあわせてご利用ください。

統一した表示用文言

添付文書に記載された使用タイミングについて、表示用に統一した文言を保持しています。

| 添付文書の記載例 | 使用タイミングの表示用文言 |
|------------|---------------|
| 食前に1日3回 | 毎食前 |
| 朝夕それぞれ食前 | 朝夕食前 |
| 1日4回食後と就寝前 | 毎食後・就寝前 |
| 食餌と共に | 食事と共に |

データベースの機能

使用回数やタイミングをチェック

添付文書に記載されている「1日2回朝食後と就寝前」や「1日4回6時間毎」などの情報を保持しており、処方における使用回数やタイミングの適正性のチェックを行うことが可能です。

薬剤情報提供書などへの利用

使用回数毎にまとめた表示用文言や使用1回毎の表示用文言を保持しており、薬剤情報提供書などへの表示情報としてご利用いただくことが可能です。

例

『グルベス配合錠』の添付文書（抜粋）

通常、成人には1回1錠（ミチグリニドカルシウム水和物/ボグリボースとして10mg/0.2mg）を**1日3回 毎食直前**に経口投与する。

『グルベス配合錠』のデータ（概略）

| 使用回数 | イベント | | | タイミング | | | 表示情報 |
|------|------|----|----|-------|----|----|------|
| | 朝食 | 昼食 | 夕食 | 直前 | 直前 | 直前 | |
| 3 | 朝食 | 昼食 | 夕食 | 直前 | 直前 | 直前 | 毎食直前 |

【薬剤情報提供書などへの表示例】

1日3回 毎食直前

| 朝食 | 昼食 | 夕食 | 就寝 | その他 |
|----|----|----|----|-----|
| 直前 | 直前 | 直前 | - | - |

